



給食に“やすぎどじょう”が登場

6月13日～16日に市内18の学校給食で安来特産のやすぎどじょうを使ったメニューを提供しました。この取り組みは、子どもたちが地元の食文化に親しみ、食べものや地域について興味・関心を深め、地域の良さを体感してもらうため、毎年6月・11月にふるさと給食週間を設け、地元の産品や郷土料理を取り入れた給食を提供するものです。

飯梨小学校では6月13日、空揚げにしたドジョウ3匹を玉子どんぶりに乗せた、“どじょう丼”を提供しました。初のドジョウ給食となる1年生でしたが、「いただきます」の合掌とともに物おじすることなくドジョウを箸でつかみ、次々と口に運んでいました。

一年生の松崎光星くんは「カリカリしておいしかった。ドジョウは好きなのでまた食べたい」と元氣よく話していました。

「親と子のよい歯コンクール」 青戸さん親子が県代表に

健康な歯を持った親子を表彰する「親と子のよい歯コンクール」県大会（主催：島根県・県歯科医師会）で、宇賀荘町の青戸智子さん（31歳）と里桜菜さん（4歳）親子が最優秀賞に選ばれ、県代表として全国大会に推薦されました。

「最優秀を受賞した記事が新聞に掲載され、周りからたくさん声を掛けられました」とその反響に驚いた様子の智子さん。「お菓子などの甘いものはとくに制限していません」と話しますが、「寝る前には膝の上に頭を乗せて仕上げ磨きを丁寧に行っています。また、定期的にフッ素を塗って予防をしています」と素敵な歯を保つ秘訣を話してくれました。



まちの話題や出来事をご紹介します



日没後の能義平野。田植え後の水面にグラウンドの照明の灯が反射し、高校生の元氣な声が平野を駆け抜けます。がんばれ野球部。

今月の一枚



▼「3歳児健診を受診したときに親子でむし歯がなかったので声をかけてもらいました」と青戸さん。





宇波で迫力の神の舞

宇波交流センターで6月25日、飯南神楽団の泥おとし公演 in 宇波が開かれました。人気のある神楽団とあってチケットは即完売。会場には300人以上の観客が集まりました。

10時に始まった公演では、神を招く「神降し」に始まり、鬼を征伐する「塵輪」、「大蛇」など5つの演目を披露。6時間にわたる公演でしたが、鬼の登場するシーンはスモークがたかれたり、客席へ入って掛け合いをしたりと、終始観客を楽しませる演出があり、会場は大いに盛り上がりました。

楽しく学べる消費者問題

市内でも多発している悪質商法や特殊詐欺。これらの手口を楽しみながら学ぼうと、「より良い消費生活のための集い」（主催：安来市・消費者団体連絡会）が6月18日、安来節演芸館で開催されました。

1部では、悪質商法の手口を紹介する「松江あいあい劇団」の寸劇を上演。実際に身近で発生している事例を出雲弁を交えながら解説しました。また、消費者問題に詳しい柴山慶太弁護士による契約に関する講演も行われました。

2部では、市ふるさと大使の桂吉弥さんの落語もあり、多くの人が詰めかけました。



◀点検商法の手口を紹介する劇団の皆さん。

荒島小児童が久白川の環境学習

荒島小学校4年生が7月3日、荒島駅前を流れる久白川の環境調査を行いました。調査は毎年、総合学習授業の一環で島根県環境保健公社の協力を得て行っています。

当日は水質調査のほか、実際の生き物を捕まえる生態調査を実施。児童たちは川に入り、生物を探し、ケガニやザリガニ、メダカなどをタモで捕獲しました。今回の調査では、環境の良い指針となる生物は見つけれず「環境は悪い」と判断されましたが、杉原竜斗くんは「カニとか色々な生き物が生息していて驚いた」と話していました。



近況を紹介した東京安来会

安来市ゆかりの関東在住者で組織する東京安来会の総会と懇親会が6月17日、日立金属高輪和彊館で開催されました。当日は会員95人が駆けつけ、皆さんのルーツであるふるさとの話題に花が咲きました。

総会では近藤市長が「ちょっこし安来のお話し」と題し講演。また、安来市加納美術館の加納佳世子名誉館長が記憶遺産に申請中の加納莞蕾氏の話題を紹介。日々変化していく地元からの報告に参加者は熱心に見聞きしていました。

東京安来会は会員を募集しています。詳しいことは商工観光課までお問い合わせください。